

FANTASY Records

ファンタジー・レコード(Fantasy Records)

1940年代、マックスとソール・ワイズ兄弟が経営するプラスティックの鋳型工場でレコード・プレスも手がけるなか、最初の依頼人がデイヴ・ブルーベックであった。

そのブルーベックのレコードがローカルで成功したこと、ワイズはプレス工場をS F雑誌にちなんでファンタジーと命名し、1949年レコード会社を創設した。

ブルーベックを初め、ジェリー・マリガン、カル・ジェイダー、ヴィンス・ガラルディ等と契約していくが、ジャズ・ミュージシャン以外のジャンルとも多数契約した。

1951年に親会社ファンタジーのS F名にちなんでギャラクシ(銀河系)をジャズ専門部として設立。

(休止状態の期間や多くの変遷を経たが、トニー・フラナガン、レッド・ガーランド、ジョニー・グリフィン、ハank・ジョーンズ、アート・ペッパーなど大物ミュージシャンを連ねて、1977年に再び活気づいた。) 1968年、ファンタジーのソウル・ゼインツ営業統括マネージャが率いる組織の投資家がファンタジーを購入。

その一年後にロックバンドのクリーデンス・クリアウォーター・リヴァイバルを前面に押し出したことで、当時ヒッピー文化が全盛だったサンフランシスコで異色の存在として脚光を浴びた。

デビュー・レコードは1952年にベーシストのチャールズ・ミンガス、彼の妻セリア・ミンガス、ドラマのマックス・ローチによってニューヨークに設立されたが、1958年にチャールズとセリア・ミンガス夫婦が離婚。

セリアはまもなくサンフランシスコに移住しファンタジー・レコードのソウル・ゼインツのもとで働く(後に結婚する)が、その小さながら強力なデビュー・カタログを1971年に買収した。

1970年以降は本拠地をパークレーに移し、ブラックバーズ(ジャズ・ファンクを主流とするメンバー全員がハーヴード大学の出身者で、1973年には音楽学部で講義をしていたドナルド・バードがプロデュースに加わる)、スタンリー・タレンタイン、シルヴェスター、ルース・ブラウン、フレディ・コールの作品をリリースする。

一方では映画の『アマデウス』や『イングリッシュ・ペイシェント』などサウンド・トラックでも成功を収め最大手の独立系レーベルとなつた。

1971年カリフォルニアのパークレーでエド・デンソンとギタリスト/教師のステファン・グロスマンにより設立されたタコマ・レコードを、スチール・ギターというよりアコギ(カントリーやフォーク、ブルース等)を主体としたジャンルの拡張で1995年に買収し、キッキン・ミュール・レコードを子会社とし、設立した。

しかし、2004年コンコード・レコードに売却、そのグループ傘下に入る。

1949年 マックス・ワイズ、ソール・ワイズの兄弟によってカリフォルニア州サンフランシスコに設立。

1951年 最初の子会社、ギャラクシ・レコードを設立。

1968年 ソウル・ゼインツ営業統括マネージャが率いる組織の投資家がファンタジーの権利を購入。

1970年 本拠地をパークレーに移設。

1971年 グッド・タイム・レコード、プレスティッジ・レコード、デビュー・レコードを買収。

1972年 マイルストーン・レコード、ジャズランド、リヴァーサイド(ABCレコード権利)を買収。

1977年 スタックス・レコードを買収。

1983年 ジャズ専門レーベル、オリジナル・ジャズ・クラシックス(OJC)を設立、買収したレーベルよりリリシューされる。

1984年 コンテンポラリー・レコードを買収、OJCよりリリシューし始める。

1987年 バブロ・レコードを買収、OJCよりリリシュー始まる。

1988年 90年までウェイヴと提携(ウェイヴはWJCシリーズをリリース)

1991年 スペシャルティ・レコードを買収。

1995年 タコマ・レコードを買収。キッキン・ミュール・レコードを設立。

2004年 コンコード・レコードに売却、そのグループ傘下に入る。

コンコード・ミュージック・グループは、最大手のインディペンデント・ジャズ・レーベルとなる。

1960年2月上旬、ウェスはシスコで活動する兄弟達と“モンゴメリ・ブラザーズ”を始動させた。

バティとモンクの“マスターサウンズ”は解散したがファンタジーとの契約は続いている。一方、ウェスもリヴァーサイドと契約していたことから、レコーディングに関しては両会社の話し合いでキープニュースが交互に録るというようにとりまとめた。

結果として“モンゴメリ・ブラザーズ”は1962年4月に解散したが、それまでにファンタジーで2枚、リヴァーサイドで1枚、キャピトルとの絡みでリヴァーサイド・レコードの子会社ジャズランドに1枚を残している。

ディスクについて:

そのファンタジー盤ですが、大きな特徴は一見して分かるが、モノラル盤のセンター・ラベルは赤色(正確にはマルーン、えび茶です)、ディスクは半透明の赤色です。ステレオ盤は同じ仕様での青色(正確にはダークブルーです)です。

ただすべてがカラーディスクと言う訳でもなく、たとえばSP盤は黒、10吋盤になると、黒、赤、緑が入り混じり、12吋盤(レコード番号3000番台)になってモノラル盤は赤いディスク、ステレオ盤(レコード番号8000番台及び3000番台一部のステレオ化)がリリースされるようになって青いディスクが使われるようになった。

また、後年になって黒いディスクに戻ったということです。



1960年前後だったと思うが、東京芝浦電気(現:東芝)が、原材料の塩化ビニールに帯電防止剤を混入しエヴァークリーン(Ever Clean)と銘打ち、ホコリを寄せ付けないレコードとして発売したことがある。その後、ビートルズのキャビトル盤などにも普及したが、この帯電防止剤が経年劣化を早め通常の黒い盤よりも音質が悪くなるという話も聞いた。

当時、オートマチックのレコード・プレイヤーでこの半透明の赤盤を載せると、カートリッジがレコードの縁部分に載らざる戻ってくるという経験がある(半透明が原因?)。

たが、ファンタジー盤はエヴァークリーンとは聞いていない。見た目は同じ半透明ですが単に着色剤でモノとステレオ盤の区分けを施しただけだと思います。当然ホコリは着きますが、それでも新品で大事に扱ってもチリノイズが入り易い盤として評判はよくなかった。

12インチモノラル番号について:

3-201~3-239までは千番と百番台の間がハイフンで区切られて入るが、例えば《Mulligan Quartet/The Paul Desmond Quintet》は3-220と3220ともに確認した。

他にも《Dave Brubeck Trio/3205》《Cal Tjader Quintet/Ritmo Caliente!/3216》《Dave Brubeck Octet/3239》など全てに存在するのかしないのか不明。3240~3376までが3000番台のくくりと思われる。

12インチステレオ番号について:

モノラル番号3342から頭番号を8として整理された8000番台が登場。これにより以前のものは番号の統一性がなかった。8377からはステレオ盤のみリリースされた。

カラーディスクについて(追記):

ディスク、ラベルとも赤の装丁は3350番あたりまでで、以降は黒いディスクに赤ラベルとなる。

ただ、2nd.プレスになると3350番まででも黒いディスクに赤ラベルも多く見られる。

また、すべてではないが、例えば《Re-Union/Desmond Brubeck/3268》は正規な装丁とモノジャケット(3268)にステレオディスク(8007)で赤いディスクの青ラベルというイレギュラー盤を確認した。

他にも《Concert In The Park/Paul Miller/3276》もイレギュラー盤がみられるが、とにかくこの頃のファンタジーは録音データも管理不十分で、コレクター泣かせなレーベルである。

ステレオについて、ディスク、ラベルとも青の装丁は8345番あたりまでで、これ以降は黒いディスクに青ラベルとなる。

国内LP盤としては、東芝音楽が過去に《ウェス・モンゴメリ・ベスト》をリリースしただけで、
オリジナル・アルバム単位としてのリリースはされなかった。
これは唯一のベスト・アルバムとして残されているもので、別テイクなど挿入されて
いないが、ラベルの変化を見てください。

Wes' Best/Wes Montgomery and His Brothers



MONO

STEREO

MONO盤



1st-best

- 1. MONO :3376
- 2. ラベル :赤
- 3. ディスク :黒

注)1967年

STEREO盤



1st-best

- 1. STEREO :8376
- 2. ラベル :青
- 3. ディスク :黒

注)1967年

Promo盤



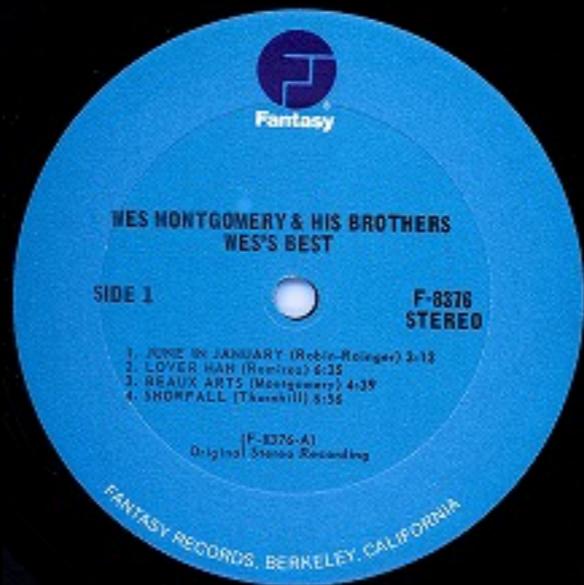
- 1. STEREO :8376
- 2. ラベル :白
- 3. ディスク :黒

注)1967年

1972年



1986年



1972年東芝音楽



1972年フランス盤

